

対人関係に課題を抱える元受刑者への支援

■ 人権キーワード

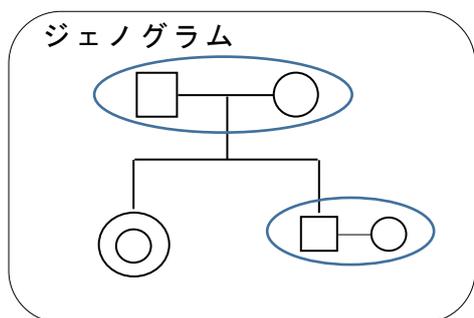
- ・ 職業・雇用、女性（DV以外）、刑期を終えて出所した人々

■ 相談者

- ・ A（40歳代、女性、刑務所に複数回収監）、障がいなし、婚姻歴なし、生活が苦しい状態、低家賃アパートに一人暮らし

■ 家族状況

- ・ 父母とは交流がない。弟は既婚、他市に住んでいる。



■ 相談の主訴

- ・ 仕事を探すことと、当面の生活資金の不足を何とかしたい。

■ 相談に至った経緯

- ・ 地域就労支援センターのチラシを見て、Aが来所。

■ 相談内容・相談者の状況等

- ・ Aは中学校卒業後、求職活動の経験や一般的な就労経験が無く、窃盗等により過去に複数回、刑務所に収監されたこともある。
- ・ Aは更生したいと望んでおり、自立した生活を送るために就労したいと考えている。また、更生の妨げになる交友関係も断ちたいと思っている。
- ・ 対人関係はとても慎重で、緊張しやすいため、体調を崩す時がある。社会における元受刑者への偏見に不安が強い。

■ 対応

- ① 中長期的な就労支援計画作成と職場体験実習を通じた、働き方・職種の検討
- ② 優先順位の整理
- ③ 対人関係トレーニングの実施
- ④ どのような仕事が合うかの適性把握支援
- ⑤ 事業所内実習
- ⑥ Aを理解してもらえる企業を探し、就職活動をサポートする
- ⑦ Aの自立したい思いを大切にしたい関わりを重視する

■ 評価および今後の課題

- ・ 元受刑者であることの不安に対しては、職場体験実習等の支援により、社会とのつながり作りや就労意欲の向上につながった。
- ・ 就職活動や就労の経験が無い元受刑者に、職探しや働き方などの初歩的な段階の手厚い支援が行われ、事業所内実習につなげることで、相談者の自信につながる取組みとなった。
- ・ 適性把握支援により、どの様な仕事が合うかを、相談者自身、初めて考えることができた。
- ・ 年齢的に応募先が限られてくる可能性があり、中高年齢者の元受刑者であることや、本人特性に理解を得られる企業探しは難しい社会であるが、様々なネットワークと連携した継続支援、求人開拓や雇用創出の取組みが求められる事例である。

■ 連携が想定される資源・利用が想定されるサービス

- ・ 民生委員
- ・ 総合生活相談員
- ・ コミュニティーソーシャルワーカー（CSW）
- ・ 人権文化センター
- ・ 市町村人権協会
- ・ O S A K A しごとフィールド
- ・ 市町村生活困窮者自立相談支援機関
- ・ 府社会福祉協議会社会貢献支援員
- ・ 生活保護担当課
- ・ 被保護者就労準備支援事業受託事業者
- ・ 高等職業技術専門校（職業訓練校）
- ・ 公共職業安定所（ハローワーク）
- ・ 無料職業紹介所（市町村）